



独自で開発したディスポーザブル鍼灸針



清潔性と安全性が徹底されている生産ライン

セイリン株式会社

日産100万本。使い捨て鍼灸針の先駆

使い捨て鍼灸針の先駆企業である。滅菌した針を1回使っただけで捨てる。病気の感染を防ぐには欠かせない。注射針については、早くからディスポーザブル(1回使用)化が進んでいた。しかし、鍼灸針は、同社が製造を始めた1980年当時、まだ使い捨てへの理解はほとんどなかった。

鍼灸針事業を始めたきっかけは、初代社長(現会長)鈴木毅氏のある出会いだった。通夜で会った親せきの男性が、鍼灸師に転職していて、治療しやすい品質のいい針をつくってほしいと鈴木氏に持ちかけた。

気軽に引き受けた鈴木氏だったが、治療現場の実態を見て驚いた。1本の針を何度も使う。針を刺したときの痛みを和らげる針管の内面には、患者の肌の脂や血液が付着している。時代遅れと感じて、

最初から使い捨てを前提にした製品を目指した。針管の中に入れた針をプラスチック製の小さなくさびで固定して、使うと針管から外れ、使用済みと区別できるよう工夫した。1回使用鍼灸針として医療用具製造承認を国から得て量産化した。

しかし鍼灸治療の知識もなく、販売ルートも見当がつかなかった。鍼灸学会に参加してPRしたが販売は伸びず、個人の資産を処分して赤字を補填しなくてはならないという事態にも直面した。

鍼灸治療界は想像以上に保守的だった。料理人が包丁を大切にするように、1本の針を手放さない鍼灸師もいた。「この針でないとだめ。味があるんだよ」と、言われて鈴木氏は驚いた。一方で使命感もわいてきた。ものづくり、品質の均一性では自信があった。

事態が突然変わった。発端は80年代中ごろからのエイズ報道だった。注文が急増。海外向け受注も拡大した。国から増産態勢をとるよう要請され、従業員を募集、機械も増設した。以来右肩上がりの十数年が続き、最新鋭の工場を完成させた。当初「せめて月産100万本にしたい」が、現在は日産100万本を超えた。

いまや鍼灸針は使い捨てでなければ売れない時代だ。そんな中でも、先駆メーカーらしさが製品に反映されている。たとえば針と針管を固定する超音波接着。プラスチック製の小さなくさび方式から変えた独自の手法で、一度使用したら元にもどらない。現社長の田中正宏氏は、社員に鍼灸師を採用して、高度な鍼灸医療への貢献を目指している。



鈴木 毅 会長

取扱製品 鍼灸針を中心とした医療機器の開発・製造・販売
資本金 4000万円
従業員数 97人
所在地 静岡市清水区袖師町
電話 054(65)5322



新製品の開発にも力を入れている



木工床用のプレカットマシン。今にも動き出すロボットのような



プレカット加工された各種継ぎ手

株式会社平安コーポレーション

木造住宅部材の生産を完全機械化

「木造住宅の建設現場で、大工さんの仕事が、ガラリと変わりました。持っている道具で、それが分かります」。プレカット工法の組み立て現場の写真をスクリーンに映しながら、同社の技術担当者が説明してくれた。

プレカット工法は、木造住宅の部材を工場ですべて加工、現場では組み立てるだけ。鉄骨を工場加工して現場で組み立てる従来のプレハブ工法をそっくり木造住宅でも実現させた。木造住宅では職人の熟練技術が求められ、材質も幅広いことから部材加工の機械化は困難とされてきた。同社は木工機械づくり60年余りの技術の蓄積を生かして完全機械化を実現した。それが同社の主力製品プレカットマシンだ。

プレカット工場では、加工機に部材を

セットすると、幅や高さ、長さをレーザー光などを使って自動測定。それを元に加工に必要なCAD(コンピューター支援設計)データを自動選択して、自動加工していくという仕組み。柱や梁の切断から各種継ぎ手など100種類近い加工パターンに対応している。ラインを通して住宅1棟に必要な部材が出来上がり、標準的な生産ラインで1日1棟(132平方メートル)分の部材を生産できる。

プレカットマシンの登場で、木造住宅建設の工期短縮やコストダウンはもちろん、現場の安全性も大きく向上した。いまや在来工法による木造住宅のうち9割近くにプレカット部材が使われているという。鈴木通友社長は「日本の木造住宅の品質向上や大工さんの作業の省力化にも貢献できている」と自負する。

平安鉄工として1939(昭和14)年に創業。手動の木工機械からのスタートで、建具用を手始めにピアノなどの部材用を手掛けた。コンピューター制御は、プレハブ住宅の内装材や家具用の機械づくりから本格化した。メカトロニクスの発展で、加工の対象が飛躍的に拡大。木質系のテーブルやいす、ドアといった木材だけでなく、航空機の床材、オートバイのカウリング(風防)、新幹線の車両など、多様な素材の加工に対応。国内だけでなく世界70カ国以上に輸出している。

「木工機械の平安」という基盤はしっかり守りつつ、新分野の機械づくりにも力を入れ、わが国の製造業の応援をしていきたい」。鈴木社長は固い意志を見せつけた。



鈴木 通友 社長

取扱製品 木工機械、産業用機械、刃物機械
資本金 1億7154万円
従業員数 160人
所在地 浜松市三島町(浜松市都田町の都田システム研究所に本社機能)
電話 053(441)3311



顧客の要望に合わせた改良や開発が続いている